

IV-27 リゾート施設整備による生活環境の変化

東北大学 学生員 ○和田昌浩
東北大学 正員 湯沢 昭

1. 本研究の背景と目的

鳴子町鬼首地区は、鳴子町の中でも中心街から離れた農村地区であるが、自然景観に恵まれたなだらかな高原地帯であり間欠泉などの観光資源にも恵まれている。現在、地域活性化とその美しい自然を活かして、観光客が長期滞在して心身ともにリフレッシュできるような総合リゾート地を目指して開発が行われている。昭和48年にスキー場がオープンし年々拡張され、観光客も増加傾向にあり、今後ゴルフ場やクアハウスも整備される予定である。

本研究は、リゾート整備による生活環境への影響を地元住民側からとらえ、現在の問題点を明確にし今後の対策の資料とするものである。

2. 本研究の概要

昭和63年9月に鳴子町鬼首地区の住民にアンケート調査を実施した。配布は270世帯（同地区の総世帯数は約460）で内223世帯（82.6%）から回答があった。内容は、生活環境の中での安全性6項目、利便性11項目、快適性15項目、職業6項目と、以上4つの総合評価、及び全体の総合評価を、現在及び過去との比較においてそれぞれ5段階の満足度（現在水準は、1.不満、2.やや不満、3.どちらともいえない、4.やや満足、5.満足、過去との比較水準は、1.悪くなった、2.少し悪くなった、3.変わらない、4.少しよくなった、5.よくなった）で評価してもらった。本論文では、それらのうち特にリゾート整備の影響を受けると考えられる要因、安全性6項目、利便性8項目、快適性9項目、職業3項目を特に選び、分析を進める。

3. 分析および結果

鬼首地区には荒雄岳（984m）を南北に「く」の字型に挟む形で带状に集落が点在しており、その距離は10kmに及ぶ。その間に温泉街、ホテル・ベ

ンション街、商店街、農村地帯、山間部などが広がっている。地域によってリゾート整備による影響は異なると考えられるため、本論文では鬼首地区を8地区に分けて地区別に評価を行った。地区の分割を図-1に、地区ごとのサンプル数を表-1に示す。

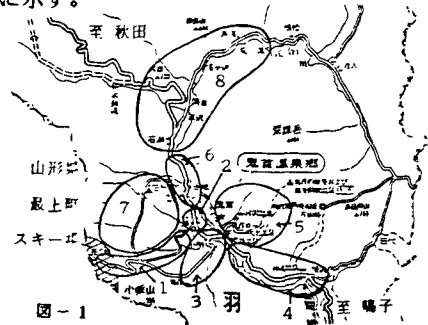


表-1 地区別サンプル数

地区	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
現在	13	19	14	24	14	20	21	16	141
過去	8	18	12	24	10	16	21	12	121

生活環境の評価として数量化Ⅱ類分析を適用し各要因群毎に分析を行った。（但しカテゴリーは前述5段階を2を普通とする3段階としている。まず、生活全総合評価を外的基準として、安全性利便性、快適性、職業、の生活に及ぼす影響の度合の順番（レンジの大きさの順）は、

現在 過去との比較

- | | | |
|-------|---|----|
| 1.職業 | → | 1. |
| 2.安全性 | → | 2. |
| 3.利便性 | → | 3. |
| 4.快適性 | → | 4. |

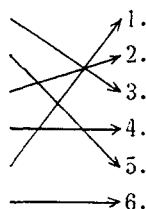
次に、上の項目のそれぞれを外的基準として各要因のレンジを求めた。職業について

現在 過去との比較

- | | | |
|--------------|---|----|
| 1.収入の安定 | → | 1. |
| 2.仕事へのなじみやすさ | → | 2. |
| 3.年間の就職口 | → | 3. |

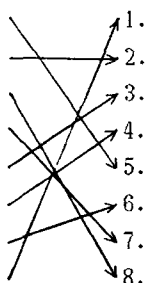
安全性について

1. 火災の少なさ
2. 交通事故の危険性
3. 治安のよさ
4. 土砂崩れの危険性
5. 河川氾濫の危険性
6. 歩行の安全性



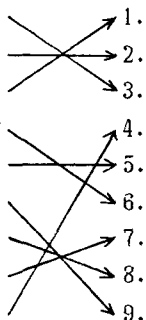
利便性について

1. バスの利用
2. 冬季の除雪
3. 病院
4. 買物
5. 集会施設
6. 交流・娯楽施設
7. 運動施設
8. 通学



快適性について

1. 秘密遵守
2. 自然が身近
3. 転居者との付き合い
4. お年寄りの暮らしやすさ
5. 地区の風紀
6. 騒音・振動
7. 景観・眺望
8. 近所付き合い
9. 地区の行事



4. 考察

以上の結果から、鬼首地区では、地元の安定した職場で安定した収入を得て安全に暮らすことが住民の生活に大きな影響を及ぼしていることがわかる。図2～5は職業全般、及び収入についての評価の比率を示している。これによると、両者の現在評価で普通または満足と答えた人はそれぞれ



図-2 職業・現在評価

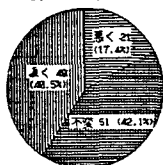


図-3 職業・過去との比較



図-4 収入・現在評価

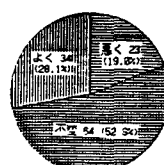


図-5 収入・過去との比較

68.1%、61.7%であり、過去との比較においても不変またはよくなったとした人はそれぞれ 82.6%、81.0%であった。リゾート整備によって地元雇用の方が少しは確保されつつあることがうかがえるが、収入の面で不満とする人が多い。安全性では自然災害に比べて人的災害の及ぼす影響が大きくなってきている。これはスキー客を主とする車利用の観光客が増加傾向にあり、それに伴う交通量の増加による影響である。利便性に関しては公共交通、除雪等の重要度が高いが、通学に関する変化が特に顕著である。これは同地区の中学校の廃校に伴う通学距離の増加を考へての影響である。また各種公共施設に対する重要度も上昇傾向にある。しかし、利便性に関しての地域差には大きな結果が出ている。例えば図-1の2地区では集会施設、買物、運動施設等の重要度が高いのに対して、4地区では除雪、バスの利用、及び娯楽施設の重要度が高い。リゾート整備によって鬼首全体に施設が重要視され始めたが、4地区や8地区のような中心街から離れた地域では除雪や交通問題の重要度が大きく、地区により問題点が異なっている。快適性に関しては過去との変化は余りみられないが地区の行事の変化が特に大きい。これはリゾート整備による若者のUターン現象とペンションやリゾート関連企業に働く人たちとの新たな交流現象の影響であり、今後とも拡大される方向にある。

5. 結論

鳴子町鬼首地区は、過疎農村地域の活性化を目指したリゾート整備により、観光客が増加し従業員の地元雇用が確保され人口流出に歯止めがかかり始めるなど活気づいてきた。しかし一方では交通事故などの人的災害が重要視されてきている。今後、開発側と住民側とがいかにバランスよく均衡を保って共存していくかが大きな課題である。